

Phyt. Geobot. **10**:1-14 (1941, Mai); Nakai T., Revisio *Melampyri Asiae orientalis* in Bot. Mag. Tokyo, **23**:5-10 et (45)-(46) (1909); et *Melampyrum* Koreanum l. c. **31**:106-109 (1917); Soô R., *Melampyrum* species of East Asia. in Journ. Bot. **65**:138-145 (1927); Tuyama T., On Genus *Melampyrum* of Japan in Journ. Jap. Bot. **17**:77-95 (1941 Feb.).

〇タチネコノメサウ奥武蔵にあり (水島正美) Masami MIZUSHIMA: *Chrysosplenium tosaense* found isolated in the vicinity of Tokyo.

武州^{イルマ}人間郡東吾野村^{アガノ}, 梅園村の近辺は今年倉田悟氏によつて多くの暖地性羊齒類を産することが分つて来た。1953年4月19日, 上記2ヶ村内を歩いた折に梅園村の溪流岩上にタチネコノメサウを採集した。其の場所は奇しくも倉田氏がアヲネカヅラを発見された崖の直下に当つて居る。名祿は原博士に確認して戴いた。初めツルネコノメサウと思つたが, 地上匍枝がなく帯紅色1cm長未滿の地中匍枝があるので妙に思つた。然しタチネコノメサウと分つて見ると牧野先生がツルネコノメサウの変種に下されたことがあるのも宜なる哉と首肯される。

本種は現在迄に伊勢, 美濃, 山城以西の本州, 四国, 九州の山中陰地又は溪側に生ずるとの報告があるが, 以東に発見の報を知らない。然し杉本順一氏の御教示により遠江秋葉山(杉本 1930年), 八高山(杉本 1932年), 小笠郡土方村(黒沢美房), 駿河竜爪山(伊東博 1953年)の4ヶ所の産地を知り得た。依て東海道にも本種を産する事を此所に報告する。採集した溪流の周辺は大体植林されたスギの林で, コナラヤシデ類も多いが, 往古は鈴木時夫氏の謂われるカシ型に近い森林が発達していたであろうと想像する。武州の森林植生は挙げて河田博士の“常緑落葉針広混交林”に属することになるが, 奥武蔵は奥多摩よりも錯雑した谷を有して冬の卓越風の影響を緩和し, 今日二次林に普通な樹種を含むこと多しと雖も林中にスダジヒヤカシ類も亦多いことから推して“常緑針広混交林”により近い形の森林が見られたであろうと考える。若し復元された林相が斯様なものであるとせば, 過去の気候の反映としてのアヲネカヅラ, セイタカシケシダ, イハヘゴ等々の産と共にタチネコノメサウの存在も十分可能なものと言えよう。尚倉田氏によれば奥武蔵にはオホメシダを産するが, 此の寒地性羊齒は暖地性種とは別途に, より新しく秩父方面から分布して来たものかとも考えられようが, 或は地史に結びついた更に古い遺存分子かもしれない。兎も角オホメシダを産すると云ふ事実は奥武蔵の古植物相を上述の如きものの持続であつたらうと簡単に割切るのに一抹の不安を投げるものとなる。

終りに標本の同定を賜うた原博士及び懇書を惠まれた杉本順一氏に深謝を捧げます。

(東京大学理学部植物学教室)

〇ソヨゴの産地 (久内清孝) K. HISAUCHI: A locality of *Ilex pedunculosa* Miq. ソヨゴ (*Ilex pedunculosa* Miq.) は, 本州西部では普通のものだが, 関東へ来ると一般的でなくなる。昭和28年5月5日, 埼玉県の大棒の折山の川又からの登山道の右側で一本見出した切株から出たひこばえだが一応記録しておく。この附近にはヲノヲレ, アヅマシロカネソウが見られた。